

重点施策の収益改善

ナカノ商会

今期 不採算撤退、総仕上げ

ナカノ商会(沼澤宏社長、東京都江戸川区)は、重点施策の収益改善を推進していく。2016年9月期は大型の設備投資は実施せず、2年ほど前から本格的に着手している不採算事業から撤退を図る総仕上げの年と規定する。

今期の連結業績目標は、売上高が323億円(15年9月期は300億円程度)、営業利益は9億円(9億円程度)に設定。関西支店(神戸市東灘区)の売り上げがフルに寄与するほか、既存顧客との更なる関係強化にも取り組む。

また、熟成肉とワインを看板メニューとするレスト

ラン「肉バル スノーキー」の3号店を10月上旬に千葉県市川市でオープンするなど、前期比で7%以上の増収を目指す。併せて、より一層の事業拡大に向け、管理者の育成・確保もテーマに挙げる。

沼澤社長は「今期は取引先を見極める最終章と位置付けている。会社が存続する条件は、利益、雇用、成長の三つ。永遠に成長し続ける宿命を負っているのが会社。成長を止めた途端に会社は衰退に向かう。成長できかないのであれば、市場から撤退すべき。その信念の下に経営に当たっている」と話している。(沢田顕嗣)

ニチレイは10月30日開催した2015年4～9月期の決算説明会で、低温物流事業が売上高91.6億5100万円(前年同期比3.0%増)、営業利益53億600万円(28.6%増)の増収増益となった、と報告した。

増収は、昨年10月に稼働させた咲洲物流センター



「ドライバーと倉庫作業員の不足でコストが上昇している」と大谷社長

に推移したのが主因。また、ドライバーや倉庫作業員の不足などに伴うコスト上昇要因は継続したものの、輸配送業務での運送効率化を含むコスト吸収効果の本格化や、保管貨物の在庫量が

4～9月 コスト吸収が本格化

700万円(1.2%減)、地域保管289億3700万円(6.9%増)、海外163億6200万円(9.4%増)。一方、営業利益は、物流ネットワーク20億900万円(45.4%増)、地域保管28億9200万円(21.7%増)、海外6億300万円(20.7%増)と、いずれも伸長した。

下期は、船舶物流センタ

に取り込む。業務改善や運送効率化も更に推し進める。

16年3月期の低温物流事業は、売上高1820億円(前期比2.1%増)、営業利益100億円(14.6%増)の増収増益を見込む。

大谷邦夫社長は「人手不足がリスク要因となっている。低温物流事業もドライバーと倉庫作業員の不足で

また、環太平洋経済連携協定(TPP)については、「世界の国内総生産(GDP)の4割程度を占める自

JR貨物
4～9月
鉄道部門

日本貨物鉄道(JR貨物)が10月30日発表した2015年4～9月期単体決算



ドライバー2人と記念撮影に納まる小丸社長(左)

国交大臣表彰

福通

受賞者2人を祝福

両氏を招き、東京都のホテルで受賞記念夕食会を開催した。小丸成洋社長を始め、福山通運労働組合からも藤田真司書記長らが出席し、両氏の長年の業務をねぎらうとともに、受賞の栄誉をたたえた。

開会に先立ち、小丸氏は「皆さんのような素晴らしいドライバーが活躍されていることを心より誇りに思う」とあいさつ。その上で、「法令順守の徹底はもとより、交通事故始めあらゆる事故防止を課題とし安全を最優先した事業活動を行っている。引き続き、無事故・無違反を貫き通し、全ドライバーの模範となって欲しい」と激励した。